

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0290100197		
法人名	社会福祉法人 介援会		
事業所名	あおやぎグループホーム		
所在地	青森市青柳2丁目9-28		
自己評価作成日	平成25年2月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成25年3月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームは市街地中心部に位置し、地域交流や社会資源の活用ができる環境となっています。 入居者様一人ひとりの性格や生活歴、出来事に合わせた会話を楽しんでいただいている他、地域の行事等に参加することで、地域の方々との交流の下、尊厳を重視した支援をしています。 コミュニケーションの時間を大切にして、入居者様のペースに合わせた生活ができるよう心掛けております。 また、医療機関(医師・看護師)からの指示を基に、入居者様とご家族様との情報の共有・連携により、安心して入居者様と共に喜びを共有できるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域住民が頻繁にホームを訪問し、利用者と交流している他、介護を目指す実習生を多く受け入れることで、広く地域に開放されたホームとなっている。訪問者が多いので、自ずと職員は利用者への対応や接遇に配慮し、実習生の見本となるような介護に徹している。 季節に応じて、合浦公園での花見や地域のねぶた囃子の訪問、野菜の収穫等で農園へ出掛ける等、その時々に合わせて行事も豊富で、充実した毎日が過ごせる環境にある。また、市街地にあるため医療機関も近く、受診も個々に選択できる環境にある他、看取りの指針があり、希望すれば最期までホームで過ごすことができる体制を整備しており、安心して生活できるグループホームである。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着サービスとしての理念を理解し、共有しながらケアに取り組んでいる。また、事業所理念は、事務所やホールに掲示しており、随時確認している。	地域密着を意識した理念を掲げており、グループホームが地域と共にあることを管理者や職員は共有して、日々の実践に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の際に出会う近隣の方々と気軽に挨拶を交わしている他、買い物は近所の商店等に行ったりしている。	町内会に加入しており、日常的に町内の人たちがホームに遊びに来ている。ねぶた囃子の訪問やホームの夏祭り、餅つき等の行事も地域住民と共にやっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームで開催する行事に気軽に参加して頂いたり、町内会行事や総会に参加したりして、地域との関わりを深めている他、認知症について意見交換する等の取り組みを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、行事や活動内容を報告し、意見交換をして、今後の業務に取り組んでいる。	2ヶ月に1回運営推進会議を開催しており、民生委員や町内会長、地域包括支援センター職員、町内会の人等が参加し、ホームに関する話し合いをしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の内容を報告している他、市町村の担当者や地域包括支援センター等の担当者へ運営や利用者に関する相談を行う等により、連携を図っている。	運営推進会議の記録やホームのパンフレットを届けている他、利用者に関わることにについては市担当者へ頻繁に相談する等、連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束しないケアを心掛けており、申し送りや月1回のケア会議等において、職員間で話し合いの場を設け、意見交換をしながら拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアに努め、玄関や居室の施錠はしていない。また、身体拘束に関する内部研修を行い、弊害等について理解している。どうしてもやむを得ない場合の身体拘束については、マニュアルがあり、同意書や記録様式も準備されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全体で虐待や防止法を理解し、毎日のケアにあつてはならないという意識を持ち、防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に関する外部研修に職員を派遣して、理解に取り組んでいる。また、管理者・職員が話し合いの場を持ち、そこで出された意見を活用できるように取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書や重要事項説明書を基に、利用者や家族に説明をしている。また、利用料金や入院した場合の対応、退居になる場合についても十分に説明し、納得いただいた上で契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時の説明の際に、外部の苦情受付機関を伝えている他、玄関に意見箱を設置している。なるべく、家族との面談時等を利用して意見を伺い、解決できるようにしている。	契約書・重要事項説明書の中に苦情の受付に関する記載があり、入所時に説明している他、ホーム内にも掲示している。また、面会時等を利用して家族から要望を聞くようにしている他、利用者も職員に話せるように配慮している。更に、ホーム玄関に苦情の投書箱が設置され、意見を聞く機会としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	入居・退居の決定等については、ユニットとの話し合いを行ったうえで決定している。また、運営に関わることは、各ユニットの月に1度のケア会議やミーティング等で意見交換を行い、運営に反映するように努めている。	毎月職員会議があり、理事長・管理者が出席し、運営について話し合いをしている。その他にも日々の申し送りや毎月のケア会議等で意見を出す機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスシステムを基に、個人面談等により、話し合いの場を多く持つように努めている。また、管理者からの報告等を通じて、現場を把握するよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を作成した上で、外部研修へ職員を派遣している。受講後は研修の記録を作成し、勉強会を開いて職員のスキルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同地区の関係者に対し、ホーム行事への参加を呼びかけている他、入居希望の相談を受け付ける等により、同業者との連携を図っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際、本人や家族の要望を聞き、安心して生活できるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と情報の共有化を図り、積極的に会話を交わすことを心がけて、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族との話し合いの中から要望を聞き、現在のサービス内容や入居となった経緯を確認した上で適切なサービスの提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、出来ることを手伝っていただいたり、共に行ったりしている。また、食事は職員も一緒に食卓に着き、会話を楽しみながら食事ができるようにコミュニケーションに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、近況報告を家族に送付している他、来所時にも近況を報告している。定期的にイベント等を行い、本人・家族が楽しめるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の意思を尊重して支援することを心がけ、家族・本人から適宜、必要な情報を収集して、支援に結びつけている。	入所後も家族や友人と電話や手紙でのやりとりを支援している。また、入所前に行っていた美容院へ継続していくことができる等、入所前の関係が切れないように本人や関係者から話を聞き、関係継続の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの趣味等を把握している。レクリエーションやイベント等を通して他の利用者に関わり合えるよう支援している他、定期的な席替えを行い、関係が偏らないように配慮している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後においても、家族からの介護保険制度等の相談に応じている他、入居を希望している方々の情報等を電話でもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活歴を考慮し、本人の意思を尊重した支援に心がけている。	利用者一人ひとりのケアは担当制になっており、要望等は担当者が中心に伺う体制としている。本人の思いや意向が把握された際には、職員全体で共有する体制となっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から、これまでの生活歴等を伺った上で、今までの生活に近づけるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活パターンを把握している他、日々の体調に関する聞き取りやバイタルを記録に残している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の要望を聞き、スタッフ、ケアマネジャーでカンファレンスを行い、介護計画を作成している。また、計画は家族に説明し確認していただいている。	介護計画は個別の目標を設定しており、本人や家族の同意のもとで実施されている。3～6ヶ月でモニタリング・再アセスメントを行い、必要な目標を設定しなおしている他、状態の変化に応じて随時見直しもしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア会議や申し送りの際に、記録を確認した上で個別に起きた問題等について話し合い、ケアの充実に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会時、日々の様子を家族に伝え、家族からの要望等を聞き、必要に応じてケアの内容を変更している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームの行事やイベントには町内の民生委員や地域包括支援センターの職員の他、地域住民にも参加を呼びかけ、協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関と連携を図り、月2回の往診を受けている。体調に変化がある時は、その都度指示を仰ぎながら対応している。	入所前の病院を継続受診の支援をしている。また、協力医院があり、受診も往診も本人の希望によって対応できるようになっている。近くに病院が多く、医療機関に恵まれた環境にある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調に変化がある時は看護職員に連絡して対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院があった際は、医療機関を訪問して本人や家族から状態を聞き取っている他、医師や看護師とも早期退院に向けた相談をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の方針について、契約時に説明した上で、本人や家族から意向を確認している。また、医療機関、家族、ホームの役割について、その都度話し合い対応している。	看取りの指針があり、ホームで看取りを行っている。入所時に重篤になった場合や看取りについて本人・家族へ説明し、意向を聞いている。また、病状の変化があった際には、その都度家族の意向を聞いて病院と連携しながら対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応に関するマニュアルを作成し、職員は研修を通じて理解し、緊急時に対応する体制を整備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、消防署と連携を図っており、必要な指示を受けている。	定期的に避難訓練や消防設備の点検を行っている。訓練は消防署への通報訓練も行っている他、災害時に備えて、ストーブや食料・水等の準備も行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	受容と共感を常として言葉遣いに十分注意している。また、対応の仕方について定期的にスタッフ間で話し合っている。	利用者は「さん」付けで呼び、プライドに配慮した支援に努めている。言葉使いや接遇について、職員同士が注意し合うこともあり、外部からの訪問も多いため、特に注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常のコミュニケーションを通じて自己決定ができるよう働きかけている他、日々の会話から要望を聞き対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員同士で利用者個々の行動パターンやペースについて共有し、生活にストレスが生じないよう、意思を尊重して支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時に利用者本人と一緒に着替えを選んだり、家族と連携を図りながらその人らしい身だしなみになるよう支援している。また、おしゃれが楽しめるよう美容師に来てもらい対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや旬の食材について考慮し、献立を作成している。利用者の体調等を見て、配膳や後片付けを一緒に行っている。	調理師免許を持つ職員を中心に、季節に応じた献立になるように作成している他、塩分量等は看護師がチェックしている。また、利用者の好みを把握し、必要に応じて代替食の提供も行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量及び水分量は入居者一人ひとり把握し、水分はいつでも取れるよう、常時お茶等を準備している。食事は、病気等にも配慮し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後及び就寝前に声掛けにより口腔ケアを行い、習慣付けるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人の排泄時間を把握し、トイレへ誘導の声掛けをする等、その都度必要な介助を行っている。排泄の失敗時には、自尊心、羞恥心に配慮しながら、衣服の交換を行っている。	利用者個々の排せつパターンを把握して、定時に排泄ができるよう支援に取り組んでいる。また、利用者全員の排せつ回数を記録しており、ケアプランの見直しに活かしている他、排泄の失敗時には自尊心に配慮したケアに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめな水分補給を促している他、個人の能力に合わせて運動等の声掛けをして予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴日の設定はしているが、一人ひとりの希望及び体調にあわせ、いつでも入浴できるように支援している。	基本的に週2回の入浴日があり、声がけ等で入浴支援をしている。排泄の失敗等の場合は、入浴日に関わらず清潔が保持できるよう、入浴支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの生活パターンにあわせ、気持ちよく休めるよう声掛けや誘導等の支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人ひとりの薬の副作用等の情報は、看護職員からの指導等により職員全員が共有している。薬の変更があった場合は、申し送り等で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	無理強いをせず、一人ひとりのできることを把握し、手伝い等の声掛けをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候にあわせ、散歩等の気分転換を行っている。また、町内会主催のイベント等にも参加している。	行事等はあるが、その都度利用者の希望にあわせて、畑へ行って野菜を取ったり、花見や買物に出かける等、個々の希望に対応できるように体制を整備している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で金銭管理ができる方については、支払いの見守り支援をしている。買い物の要望があるときは同行する等の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から、電話を掛けたいという要望があつ時は、子機を使用して居室でゆっくりと話をしていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	こまめな温度調整により、不快感を与えないよう配慮している他、季節の花を飾る等の工夫をしている。	ホーム内は掃除が行き届き、清潔に保持されている。ホールやトイレ、浴室等の共有スペースも明るく、居心地のよい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂兼ホールには、ソファや小上がりを配置し、思い思いに休めるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものの持込や、家族の写真、位牌等を置き、落ち着いて過ごせるように工夫している。	居室は利用者個々が思い思いに使用しており、自宅からの持ち込みも自由である。持込が少ない利用者については、家族に依頼して、本人の馴染みの物を持ってきてもらう等の対応をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の名前、トイレの表示等は利用者の目線にあわせて貼っており、階段及び廊下には手すりを付け、運動等が安全にできるようにしている。		